

We are 殿下ファミリー

— 深めよう 地域のつながり 広めよう 殿下の魅力 —

殿下公民館

1 殿下地区の概要

殿下地区は、福井市中心部から西に約20 km、四方を山に囲まれた自然豊かな山間地に位置している。地区内には、風光明媚な武周ヶ池や霊峰越知山がある。武周ヶ池は、外周約4kmの緑深い森に囲まれた池で、遊歩道があり、森林浴が満喫できる。春の桜や秋の紅葉の季節は、水面に桜や紅葉が映る絶景が楽しめる。



また、越知山は、若き泰澄大師が修行して悟りを開いた山で、毎年7月18日の越知山まつりには、地区内外から多くの参拝者が訪れる。

近年、少子高齢化や過疎化が加速度的に進み、人口減少が著しい地区である。地区内の児童・生徒数の減少に伴い、令和6年度に殿下中学校が閉校、令和8年度に殿下小学校が休校になることが決まっている。以前より地区の活性化を図るために、「殿下の里づくり組合」や「うららの殿下委員会」等のまちづくり団体が設立され、それぞれ魅力と活力ある地域づくりに取り組んでいる。

なお、高齢化が進む地区内において、令和2年より安心して暮らせる仕組みを作り、病気や体の不調について気軽に相談できるオンライン（遠隔）診療を取り入れている。また、地域のDX（デジタルトランスフォーメーション）を進めるモデル地区に選定されたり、地域住民との交流を実施し、地域課題や地域の魅力の発見に取り組むコミュニティナースインターン生を受け入れたりするなど、市内でも先駆的な取り組みを実施している。

令和5年9月1日現在、人口は362人、世帯数は159戸となっている。

2 殿下の里西雲寺の桜まつり

新型コロナウイルスの影響で中止になっていた桜まつりが、4年ぶりに規模を縮小して、4月9日（日）、西雲寺境内を中心に実施された。西雲寺には、福井市の天然記念物に指定されている樹齢200年以上の3本のしだれ桜がある。「3本のしだれ桜を間近で眺め、青い山々に囲まれながら、のどかな気分で桜と殿下地区の特産物を満喫しませんか」とPRしている。山菜や葉ずし、はちみつ、惣菜、鹿シチューのジビエ料理など、殿下地区の特産物をはじめ、揚げパン、草餅、クレープなどのスイーツも販売された。さらに、啓新高校そば部によるそば打ちの実演と販売が行われ、大変盛況であった。なお、コロナ禍前、無料コーナーでは、恒例の温かい呉汁やきな粉、あんこの草だんごがふるまわれていた。

また、イベントでは、殿下小中学校の児童・生徒と卒業生併せて21名が雅楽の演奏を披露した。満開のしだれ桜に囲まれた境内で、息を合わせて音色を響かせていた。さらに、力強い和太鼓演奏も披露された。

なお桜まつり会場近くでは、数十年前から地元の一住民により花モモの苗が少しずつ植樹され、今では400本もの花モモの木が咲き乱れ、一部は「花モモの里公園」として整備されている。赤・白・ピンクに染まる里山の風景はまさに桃源郷である。桜の時期と合わせて4月下旬ごろまで多くの観光客が訪れている。

また、地区出身者が開催している画廊や100種類以上の表情豊かな古布人形の人形展も同時期に開催されていて、多くの観覧者が訪れている。



3 地域の危機をチャンスに！ジビエの利用促進

【福井学事業】

近年、殿下地区ではシカやイノシシといった獣被害が多発しており、以前から取り組んでいた「ジビエ料理」を地区住民に広げるため、男性にもお声をかけ、何度か教室を開いている。まだまだ、ジビエが苦手な方も多く、味付けを工夫しながら万人受けのするものが出来ないか試行錯誤の繰り返しである。

以前はイノシシのメニューがほとんどであったが、最近ではシカの被害が多発しているため、シカを中心としたメニューを考えていくため、専門のシェフに指導をしていただいている。

今後も、シカやイノシシと共存しながら、殿下地区だけでしか味わえないものを作って、提供できるようになればいいと考えている。



4 シニアヨガで生き生きと！

【健康長寿事業】

令和5年度からシニア向けの「ヨガ教室」を実施している。月1回のペースなので、案外前回の内容を忘れがちだったが、講師の方が復習をしてくださるので、少しずつ身につけている。皆さん和気あいあいとした雰囲気の中で取り組めるので、身体も心もリフレッシュ出来ているようである。

なかなか外で運動する機会のない当地区の高齢者の方々に、「動ける場」を提供できるよう、今後もさまざまなスポーツを考えていきたい。



5 冬の風物詩「竹イルミ」

【青年事業】

令和2年度より、11月末～1月までの約2ヶ月間、公民館前に竹灯ろうでイルミネーションを点灯している。100本以上の竹を飾り、殿下地区の冬の風物詩となっている。例年、青年事業として、地区内の若者や地域のまちづくり委員会、殿下小中学校の児童・生徒の皆さんによって、竹にドリルで穴を開けたり、竹イルミの設置を行ったりしている。また、毎年竹やライトの点検・補充をし、年々バージョンアップを図っている。

しかし、令和7年度より、閉校となる殿下中学校跡に公民館が移転することが決まっているため、現公民館での竹イルミは令和5年度で最後と考えているが、何年も続いている竹イルミを終わらせたくないという思いから、今後は違う形で継続していけたらと考えている。



6 終わりに

殿下地区では、少子高齢化や過疎化等、さまざまな地域の課題が渦巻いている。しかし、危機感を持って殿下地区を何とかしなければいけないという熱い気持ちを持った人や、いろいろな事業に協力的な人が多い。

今後も、公民館と地区民が一体となり、殿下地区の特色を活かした公民館事業や、まちづくりを通して、地域の活性化につなげていきたい。

殿下公民館、殿下幼小中学校、殿下地区各種団体が連携協力した行事や事業が多く開催されている。地区民たち一人一人が、殿下地区に対する愛着が強く、地区を活性化するために何をするとよいかを常に考え、そのための労力をいとわないということを強く感じる。新聞に取り上げられる活動が多く、殿下公民館のHPをみると詳しいことがわかる。